2017年（平成29年）7月17日　月曜日　第597号（毎週1回発行）

APJ

本新聞はヤマト運輸(株)に委託して、ポスト投函方式でお届けしています。（郵便物ではありません）

パチンコ・パチスロ業界最新情報

週刊アミューズメントジャパン

Weekly Amusement Japan

2017年（平成29年）7月17日 月曜日

Weekly Amusement Japan
©2017 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing
Amusement Press Japan
planning & production
Amusement Promotion
printing
Four Plus One
年間購読料27,000円（税・送料込）
本紙記事の無断転載を禁じます。

編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F　TEL.03-5447-0555　http://www.amusement-japan.co.jp

週刊アミューズメントジャパンは
毎週月曜日 Webアップ!
PDFでもご覧いただけます
アミューズメントジャパン　検索

今週の紙面から

ゴチシリーズの最新版
『CR 交渉人 真下正義』
平和　2面

大型2機種を同時発表
『パチスロ北斗の拳 新伝説創造』
サミー　2面

衝撃の新・継続システム
『ぱちんこ 魔法少女まどか☆マギカ』
KYORAKU　2面

セクシーバトルパチンコ
「パチンコCR学園黙示録ハイスクール・オブ・ザ・デッド」
高尾　2面

5.5号機 高稼働の要素とは?
失敗しない9月の入替え戦略　3面

チャンが国内2勝目
長島茂雄 INVITATIONAL
セガサミーカップゴルフトーナメント2017　3面

室田が最多更新18勝
KYORAKU モア サプライズ カップ2017　3面

警察庁
規則改正案を発表
出玉率 概ね現行の3分の2の出玉に

警察庁は11日、HP上で「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則案」に対するパブリックコメントの募集を開始した。上限の出玉を概ね現行の3分の2とするなど、射幸性の引き下げを案の柱としている。

今回の改正は、IR推進法案の付帯決議でギャンブル等依存症対策の強化が求められたことなどを踏まえたもので、遊技球の獲得性能に係る基準を見直すなど、過度な遊技の抑制を図るために、射幸性を抑える改正案となっている。

概要は表に記したが、ポイントは新たに4時間遊技（パチスロは160ゲーム）の出玉率の基準を設けた点。この「4時間」はユーザーが遊ぶ標準的な遊技時間として設けたもので、その出玉率を40%以上150%未満とした。

このほかの出玉率の規定については、パチンコは1時間遊技の上限を300%未満から220%未満に引き下げたほか、下限についても3分の1以上（約33%）という基準を設けた。10時間遊技の上限は現行の200%未満から3分の4（約133%）未満とした。このほか、役物連続作動装置（大当たり時のアタッカー開放回数）を現行の16回から10回にすることも盛り込まれている。

パチスロの出玉率についても新たに1600ゲームの出玉率を40%以上150%未満としたほか、1万7500ゲームでは60%以上115%未満とした（現行は55%以上120%未満）。

1回当たりの大当たりで得られる出玉についても規制を強化。パチンコの上限は現行の2400個から1500個に、パチスロは上限480枚から300枚にそれぞれ引き下げる。

このほか、出玉情報等を容易に確認できる遊技機に係る規格の追加、管理者の業務の追加、パチンコに6段階の「設定」の導入を認めることなどが盛り込まれている。なお、賞品価格の上限については、今回の改正案には盛り込まれていない。

この改正案について、矢野経済研究所の稲田剛史主任研究員は「パチンコが仮に設定による出玉率での管理になった場合、低貸し専門店などは利益確保の点で、かなり苦労するのではないか。そもそも、違う遊びであるパチンコとパチスロの出玉率を揃えるという点で、やや無理を感じる」と指摘。そのうえで「性能が落ちてしまったと捉えられないよう、メーカーは新基準による認定や検定を受けた遊技機については、3年間は営業所への設置を認めるとしている。施行期日は2018年2月1日を予定している。意見受付期間は7月11日から8月9日まで。

経過措置として、現行基準の機種が混在する時期が続く。その間に既存ファンを放さない施策を取ながら、新たな基準の機械で新たなファンを創造していくことを考えるべきだ」と提言する。

現行規則と改正案の一部対比

パチンコ

遊技時間	現行	改正案
1時間	300%未満	1/3以上220%未満
4時間	現行規制なし	40%以上150%未満
10時間	50%以上200%未満	50%以上4/3未満

パチスロ

遊技回数	現行	改正案
400G	300%未満	1/3以上220%未満
1600G	現行規制なし	40%以上150%未満
6000G	150%未満	50%以上126%未満
1万7500G	55%以上120%未満	60%以上115%未満

震災遺児を支援
グランド商事・アドバンス

徳島県を中心にホール13店舗を展開するグランド商事・アドバンスは5月、東日本大震災による遺児を支援するため「東日本大震災ふくしまこども寄附金」に100万円を寄付。福島県の内堀雅雄知事から感謝状が送られた。

グランド商事・アドバンスは、震災で被災した子どもたちを助けようと2013年から同団体への寄付を開始。遺児が将来への希望を持てるように長期的な支援していくという。

規則改正でどんな遊技機になる!?

文＝片瀬宏之（DK-SIS室 室長）

今回の規則改正が遊技機開発にどのように影響していくと想定されるか。DK-SIS室の片瀬宏之室長に解説してもらった。

ぱちんこ遊技機の1時間出玉率の下限が1／3（約33.3%）となったことは、ベースに影響を及ぼすと考えられます。1時間の試射試験をした場合、大当たりをしない可能性は十分にあります。大当たりが発生しなかった場合はベース＝出玉率となり、現在のベース30では下限を下回ってしまうため、現在の遊技機よりも高ベースの遊技機が登場することになるでしょう。

新たに4時間の試射試験が設けられました。この下限の影響は、初当たりの大当たり出玉を5000個など少なくして、確変中大当たりで大きい出玉を出して気持ちよくさせるような仕様を難しくしています（少ない出玉では非確変などの場合に下限出玉率40%を超えられないため）。

実質の獲得玉は3分の2以下に

次に1時間出玉率と4時間出玉率の上限について考えてみましょう。これは特賞時間（TO）に影響を与えます。今までと同じ出玉を出す場合、非常にゆっくりと出していかないと範囲内に収まらないため、「大当たり1回の獲得に有する時間が長くなる」、「確率変動中の確率が低くなる（連チャン中に次の大当たりまでの時間がかかる）」、「確率変動中の時間当たりのスタート値が低くなる（低SA）」ということが考えられます。

今回の改正案は1時間、10時間について現行の2／3程度の水準とあります。今までは1時間で獲得できる出玉は最大で12000個でした。これが1時間で7200個と現行の3／5となり、目安としている2／3よりも低い獲得しかできない試験基準値が設けられることになります。目安以下の基準となってしまうことを知っておいていただければと思います。

大当たり出玉の規制強化は、上限が1500個となりますが、実質の獲得玉は1300～1350個程度となるため、1／319の確率で遊技機を作った場合に1回の見返りがかなり小さくなります。さらに全体の出玉性能は今までより低くなり、出玉を出すまでに時間がかかるようになるため、1／319はよほどゲーム性を考えないとバランスの悪い遊技機となるでしょう。このため1／200前後の遊技機が増えるのではないかと予想します。

開発の方以外にはなかなか理解が難しいですが「MNRS」が現行の12以下から10以下となります。これはラウンド数が16から10に下げられた新規則で考えると唯一緩和された条件となります。「こんな遊技機ができます」と一概に言えませんが、ズベックの幅が広げられる部分になりますので各メーカーが考えるゲーム性に期待したいと思います。

ノーマルタイプにも大きく影響

パチスロも下限出玉率はベース（1000円ゲーム数）に影響し、上限は出玉性能に影響を及ぼします。大当たりの出玉規制により1回で獲得できる遊技メダルの上限が300枚（払い出し）となります。第2種特別役物（いわゆるCT）搭載時の獲得メダルも下げられますので、実際ノーマルタイプのBIGは200枚前後となってしまうと想定されます。

パチスロは短時間（400回試験）出玉率上限2・2倍の影響が大きく、ノーマルタイプ、A＋ARTタイプともに大幅な出玉性能の低下が予想されます。また、RTやARTを搭載する機種にとっては中間（600回試験）の上限1・26倍も大きく影響します。

RTやARTはノーマルタイプと比較して同じ試行回数におけるリプレイ回数が多くなります。試験時の上限出玉率はリプレイのアウト・セーフは除かれて検査されるため、想像以上に出玉性能は悪くなるでしょう。また、新規則におけるARTの純増枚数は1・4枚程度と想定していますが、今後の交渉や解釈の仕方によってはもっと多い純増枚数も可能になるのではと思います。

パチスロにおいてもパチンコ同様現行水準の2／3に抑えたいはずの出玉が短時間試験で3／5になっています。リプレイのアウト・セーフが試験上除かれるパチスロはファンの体感は3／5よりもさらに低い出玉となります。パチンコ・パチスロともに売上性能は確実に下がります。この事実を受け止め、減収増益の仕組み作りにいち早く取りかかっていかないと生き残っていくのは難しいと思います。

大分県遊協
車内放置事故防止訓練を実施

大分県遊協は3日、大分市内の「ルネックスパーク坂の市店」の駐車場で、幼児の車内置き去り事故防止大会を開催した。組合員は店内放送による呼びかけや巡回などの訓練を行ったほか、大分東消防署救急隊から、熱中症時の応急措置要領や、低体温症時の応急措置要領、心肺蘇生（人工呼吸及びAED使用）時の使用要領の実技などを学んだ。

訓練終了後、岩田憲行副理事長は「ホールに戻ったら駐車場の巡回と、未然抑止の活動の徹底をお願いします」と組合員に呼びかけた。

大分東消防署救急隊による応急措置の実技

万一に備え 事業継続計画更新
アンダーツリー

「キコーナ」の屋号でホールを運営するアンダーツリーは7月、昨年7月に初めて制定した初版のBCP（事業継続計画）を更新した。大規模地震などの災害が発生した際に、専用の安否確認ツールやその他連絡ツールを使い、出勤していないスタッフの安否状況まで確認するほか、各種情報の連絡ルートを整えた。

担当者は「災害は忘れたころにやってくるので、常日頃からBCPに対する意識を高めていきたい」と話している。

営業店舗 9884軒
全日遊連 加盟店舗数

全日本遊技事業協同組合連合会が集計している組合加盟店舗の実態調査によると、5月末時点での営業店舗数は前月末より36軒減り9884軒だった。5月の新規店舗数は7軒、廃業店は前月より20軒多い38軒だった。

遊技機設置台数はパチンコが253万8988台（前月比7736台減）。パチスロが155万9133台（同台5339減）。パチンコ、パチスロともに減少に転じ、「その他」に分類される遊技機を含めた総台数は409万4台（同8975台減）だった。

全日遊連加盟店舗の実態調査結果　都府県方面遊技業協同組合加盟店舗

	営業店舗数	新規店舗数	廃業店舗数	休業店舗数（当月発生分）	遊技機台数 ぱちんこ遊技機	回胴式遊技機	その他（※）	総台数
2016年5月	10,139	9	34	151(17)	2,614,306	1,517,022	103	4,131,431
6月	10,126	15	28	153(16)	2,610,395	1,519,622	103	4,130,120
7月	10,092	6	37	154(15)	2,598,559	1,522,851	103	4,121,513
8月	10,077	11	34	145(17)	2,593,413	1,525,490	103	4,119,006
9月	10,044	5	45	143(17)	2,584,159	1,524,774	103	4,109,036
10月	10,021	3	27	139(13)	2,578,284	1,524,948	103	4,103,335
11月	9,993	8	37	138(15)	2,570,292	1,525,852	103	4,096,247
12月	10,011	46	33	131(16)	2,576,278	1,541,556	103	4,117,937
2017年1月	9,964	9	46	134(18)	2,558,264	1,543,304	103	4,101,671
2月	9,950	8	31	129(8)	2,554,943	1,541,851	103	4,096,897
3月	9,915	10	47	123(15)	2,546,723	1,541,591	103	4,088,417
4月	9,920	20	18	120(10)	2,546,724	1,551,452	103	4,098,279
5月	9,884	7	38	122(16)	2,538,988	1,550,913	103	4,090,004

（注）①店舗数、遊技機台数は、各月の末日現在の数　②※その他はアレンジボール、じゃん球、スマートボールを意味する　（2017年6月30日現在の集計）